

寺婦のひろば



寺族婦人研修会での一コマ 講師：北島清秀先生

坊守さんだからこそその主役

出雲組源光寺 西谷智英

「アラ・フォー」、昨年の新語・流行語大賞で、四十才前後の女性を指すとか。この語の裏側に今の世相が映るのは私だけでしょうか？

真宗寺院は坊守さんで持つとも言います。家族で寺族、主婦で坊守、母親で奥様…大変ですね。私が良くご縁を頂いたお寺のあちこちのコーナーに山野草が目につきました。『どなたが？』『ごいんげです』と笑いながらのお答えの奥に、お二人の共感と共有の思いが見えて微笑みを覚えます。小さな気配りでも心和む大きなおもてなしが演出されます。

今は亡き私の母、前坊守が、私の妻が坊守時代、よく注意された言葉は『自分の事は後、お寺のことが先』。この言葉で子どもたちは随分犠牲になったもの、でも良く了解して育つてく

れた子どもに今は感謝。聴聞の座は代々継承して前坊守となつた今も努力中で、ご門徒の法友・茶友として努めています。

頂き物の多いのもお寺ですね。時どき頂き物が並んだ食卓で、届けてくださる方の心を頂戴して、『どっちが貰い上手？』とか、『おかげさまだからありがたい』と、爺住と婆坊の会話がたい。

私が学生時代の昭和二十二年でしたか、庭一面真っ白な雪の早朝、足跡が一直線に駅方向に向かっています。限られた私のための乗車券を入手するまで三朝も四朝も続く順番待ちの母の姿を思い出し、阿弥陀さんのご恩徳に気付くとともに、母、坊守の教化が甦る今年の雪の朝でした。

性・性があいまい気味の昨今、女性であるからこそ、温もりと潤いのあるお寺づくりに主役を。

寺族婦人研修会に 参加して

浜田組金蔵寺 朝枝 恭子

不思議なご縁で山陰の地に嫁ぎ長い年月が流れました。その間、教区の方々にお世話になりました。この度の研修会に参加いたしました。車窓より秋の風情を楽しみながら、光輪寺様に初めて参詣できる嬉しさと、奈良方面研修旅行にご一緒した前坊守様にお目にかかれる喜びとで一杯でした。

研修は、宗祖の「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」のご消息についてのご講義が展開されました。ご消息を拝読いたしました、その厳しい一言一言にただ頭が下がるばかり。想像を絶する宗祖の御苦労が偲ばれてなりません。念仏弾圧の過酷な逆境下で「ただ念仏のみ」の仏法をひろめるべくどんなに御苦労



なされたことでしょうか、と…。

二年後、宗祖七百五十年大法要をお迎えします。五十年前の「七百年大法要」勤修当時、ご報恩の感動溢れる御同行が沢山いらつしゃいました。この法要を機縁に、私は山陰(浜田)へまいりましたので、当時のことが鮮明に偲ばれます。ところが、現在の社会状況は無宗教時代で、私ども門信徒のご信心の中身もまことにお恥ずかしい限

り。坊守として何をやってきたのか、ただ慚愧するばかりです。

なんとなく【アンノン】と過ごしておりますことは、本当にあいすまないことです。「仏法ひろまれ」の宗祖の熱き願いを抱き、日々に聞法を重ねつつ、来たる宗祖七百五十年大法要をお迎えしたいことです。

寺族婦人研修会に 参加して

因幡組浄宗寺 片上 優子

この度、乗光寺ご住職の北島清秀師をご講師とし、光輪寺様を会所として山陰教区寺族婦人研修会が開かれました。普段は多忙でゆつくりと座ってお話を聞くことができない私たち坊守としては、今回のような研修会に偶わせていただくことうれしく思っています。

『念仏の声を世界に子や孫に』という前回のテーマは、子どもをはぐくみ育てていく私たちにとってとても大切な言葉でした。幼な子を胸に抱いた時のあのぬくもりが、『親にならせていただいた』喜びそのものなのでしよう。けれども、世界中で人間同士の悲しい争いがあり、それによって苦しんでいる人たちが大勢います。そのような現在にあつて、誰もが救われ、自らの往生は間違いないと思つている私たちが次にすることは、み仏に対する自身の報恩感謝であるとともにそのことをより多くの人たちに伝えていくことなのではないでしょうか。【世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ】という親鸞聖人のお言葉そのものである今回のテーマこそは、『世界はみな同朋』をスローガンとする私たち全員の願いでもあるのです。

今回の研修会に参加させてい

ただき、私たちは妻として母としてそして親として、一人一人が大切なことを与えていただいたと感謝しています。難しいことも多く、なかなか理解できないこともありましたが、今一度ゆつくりと親鸞聖人の御消息を読み直し、じつくりと味わいたいと思っています。

二〇〇七（平成十九）年度 寺族女性教区代表者 研修会に参加して

益田組西光寺 中村明子

三月五日・六日に開催された標記研修会に益田組より二名出席させて頂きました。会場の聞法会館で、宗門関係の幼稚園卒園児さんでしょうか、卒園参拝の可愛い制服姿に出会い心なみえました。

研修会では、宗門及び基幹運動の現況等のお話、讃歌指導、文

化財についての講座がありました。最近では自分から進んで学ぶことをしなくなつた私にとつて、すべて貴重な時間でした。分科会は「開かれたお寺をめざして」のテーマでの話し合ひでしたが、私が入った班では「立場が同じ者同士が集つたのだから本音で話しましょう」とのことで、年代を越えて、仏華のこと、おときのこと等々日常のことについても話しが及び、楽しく、とても参考になるお話が沢山出ました。

地域、年代も違いますが、皆さんそれぞれに頑張っておられる様子が伝わってきました。

私の住む地域は過疎、高齢化の著しい山村です。混迷する現代社会、その中で生きて行かなくてはなりません。地域の一員として、寺族として今一度自分を見つめ直し、ご法義相続のため精一杯努めなければと、二日間の研修を通し、思いを新たにしましたことでした。

「百周年記念コンサート」に思いを馳せて

仁摩組浄円寺 藤本 陵子

二〇〇八年六月八日、五十猛仏婦「創立百周年記念大会」を開催いたしました。記念事業として記念誌の作成と記念コンサートの開催を計画。幾度も会を重ね準備を進めてまいりました。

のキャストにより二胡との合奏。最後に若婦会のコーラス参加もあり、二胡とアンサンブルの音色が本堂一杯に響き渡り、感動のうちに終演いたしました。

幸いにも当日は好天気恵まれ、午前の部は記念式典。引き続き「いのちの尊さ・慈しみの心 世界に響け！」の講題にて姜暁艶（ジャン・シウウイエン）さんの語りと二胡、上木ひろみさんのシンセサイザーの演奏。二部

会場の皆さんから「胡弓の音色に魅了され、仏教讃歌に心を癒されました」との声を聞き、会員共々喜んだり、二胡の音色で、懐かしい歌を会場の皆さんと口づさみ感激したり等、昨日の事のように思い出されます。

この記念大会が単なる節目の集いに終ることなく、過疎、高齢化の進む厳しい世相の中で、報謝活動を継続していくことの難しさ、大切さをひとり、ひとり、自分に問うていかねばと心新たにするものです。



は仏教讃歌を酒見佐伎子さん（ピアノ）酒見朗子さん（クラリネット）中村英晴さん（フルート）

合掌

主体も本質も無かった自分

鹿足組妙壽寺 村上 元

近年、自己啓発セミナーやスピリチュアルカウンセリング、心理テスト、占い等が流行っていますが、こういったものに興味を引かせる誘い文句に「本当の自分探し」とか「自分の本質に目覚める」などというフレーズをよく目にします。

どこか魅力的な言葉に見えますし、私自身も二〇代前半「自分探し」という名目で一人旅をしたものでした。そこで「本当の自分」を見出せたかというと、ただただ人の優しさや温もり、親切に助けられるばかり

で、自分一人で何でも出来ると思えた旅は、自分一人では何も出来ない事を思い知らされたものとなったのです。

お釈迦様のお悟りの中に「諸法無我」というものがあります。すべての存在には、主体(本質)とも呼べる「我(自性)」など無いということです。私の中に私たらしめる主体も本質も無く、唯、目に見えるもの見えないものを含めて一切の縁起によって生かされている存在。つまり、「自分」に嘘も本当もないのです。

上手くいっている時の自分は「本当」で、上手くいかなかった時の自分は「嘘」であると…。そう見ていませんかね? 私達。

NET縁



大家組浄土寺 原田由久子



時代の流れでしょうか? 出会いも結婚もNETでとあちこちで聞きます。

お寺の後継者、入寺希望者、お嫁さんがほしいからと「NET縁」が開設されたと聞き良い方向にいは良いなと思えました。

私たち過疎地にもいいのでしょうか?

山間部の御院家さんが言われました。「NET縁で知りました。入

寺したいのですが一ヶ月いくらもらえますか? 門徒数は何軒ですか? それだけですか? それで電話が切れたそうなの…。

ご門徒大事にと時々布教にでられたり、お寺のあり方について真面目に取り組んでおられる御住職様、「何か淋しくなりました。田舎にきてもらっても仕事もなければ寺がなりたつていけません。困ったもんです。」と話されました。

お寺を維持していく事のむづかしさ、過疎をどうやって生きているのか大きな課題のような気がします。

短歌のコーナー

○黄鶺鴒が我が家に初めて巣立ちたるを
今年の吉事とメモに残せり

○円錐に立つ高野槇の凜とあり
針葉の叢に小鳥の寄らず

○甘やかに山雀啼けり山茶花の
散り敷く庭に日の射す朝

○鋼管を繋ぐ鳶職の技冴ゆる
綿雲の浮く大屋根の上

○羅漢槭の樹下にクロッカスを
埋めゆく

○猫まんましてもいいかと我に
聞く

○久方振りに帰りし幼は
魚屋がうっかり持ちしわが眼鏡

○すぐりの実の熟るるを待ちて
食みし畑

○実家の寺の墓地になりたり
間歩伝ふ天からの水に便りあし

○嫁ぎし頃の難儀を思ふ
酉年の女三世代揃ふ家

○五みの立場に添ひつつ生きむ
(J・T)

お知らせ!

二〇〇九年九月十四日(月)
教区寺族婦人会連盟四十周年
記念研修会を開催予定です!

会場 出雲組妙壽寺にて

ご講師

安芸教区山県太田組正覺寺

清胤 祐子 先生

講題「あなたにあえたから」

編集後記



▽年末からの大雪は、各地で数々の被害をもたらしたようですが、各寺院及び関係者の方達におかれまして、被害にあわれた所がないかと案じております。
▽昨年は、自分勝手な思いによる放火やひき逃げ事件などが多数起きたようですが、これは、自分自身を見つめる鏡を持たず、又他人の事を受け入れる心も忘れた生活が続いたための出来事なのではないでしょうか。

今こそ、人は自分一人で生きているのではなく、多くの人や物に支えられていることを教え、生かされていることに気づくためにも、仏法を広めなければいけないのではないでしょうか。

▽今年には教区寺族婦人会連盟結成四十周年の年です。これを期に私たちの歩む道をもう一度見つめ直したいものです。